

# 「グルメ杵屋うどん打ち教室」

## —立命館大学食マネジメント学部との共同プロジェクト

グルメ杵屋は立命館大学食マネジメント学部と初めて手を組み、商品開発プロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトは、「食」に興味を持つ大学生を対象に、グルメ杵屋レストランの商品開発部が指導しながら、共同で商品開発をしていくものです。今年が初の試みで、約3カ月で計5回のセッションを行う予定です。今月の5月8日と11日にそれぞれ立命館大学食マネジメント学部とグルメ杵屋本社1階研修センターでセミナーとうどん打ち教室を実施しました。残りの3回は5月25日、6月8日、7月6日に本社で実施する予定です。

本プロジェクトに立命館大学の学生が計16名が参加され、読売新聞の方と一般の方5名がコメンテーターとして今後参加の予定です。最終回にて作品の商品化を予定しています。

グルメ杵屋は今回の共同商品開発プロジェクトを通じて、若い世代との交流を広げ、「食」作りの楽しさと厳しさを彼らに体験し、共鳴してもらいます。次世代のファンづくりや新しいアイデアの取り込みを期待しています。今後も大学生との交流活動を増やして「おもてなしで付加価値の創造を紡ぐ」というグループビジョンを実践していきたいと考えています。



### <本プロジェクト実行スケジュール>

- ・5月08日：オリエンテーション（立命館大学食マネジメント学部）
- ・5月11日：商品開発セミナー&うどん打ち体験（グルメ杵屋）
- ・5月25日：一回目 商品試作&講評（グルメ杵屋）
- ・6月08日：二回目 商品試作&外部講評（グルメ杵屋）
- ・7月06日：最終回 商品発表（グルメ杵屋）





# 学生たちがプロジェクトにかける思い

●商品開発業に元々興味があり、インターン先の方に商品開発を依頼されてもいい提案をする事ができなかった。反省として、商品開発の経験が無すぎたということが理由の一つとして挙げられた。ここに参加することができたら、経験とノウハウをえることができるのではないかと考えている。このスケジュール終了後に得たものを元にインターン先に、再度商品開発の提案をしたいと考えているため、参加を志望する。

●昨年商品のレシピ開発をした際、苦手意識を持つ人が多いヨモギを試行錯誤していく中でおいしく食べやすい商品に完成したときの達成感や食の可能性を生み出す楽しさをまた味わいたく応募した。うどんは種類が限られシンプルな印象があるが、商品開発で目新しいと感じられるうどんを生み出し食べる人に新たな価値観を持ってもらうと同時に私も他の人の価値観を取り入れ考案したうどんを食べてもらい、自分の自信に繋げたい。

●私は香川県出身なので、自分の知識や今までたくさんうどんを食べてきた経験を活かして商品開発に取り組めるのではないと思ったから。また、商品開発をする立場になることで、今まで見つけられなかったうどんの奥深さや魅力を再発見したいと思ったから。

●生まれも育ちも四国の私にとって、うどんはとても身近で大好きな食の一つである。そして商品開発は、私の将来の目標の一つであり、それが学生時代に経験できるほど貴重な機会はないだろう。この活動を通して、一つの商品を作り上げる上で必要なスキルや知識を知り、お客様においしい食を届けるために必要なものは何か考えたい。見た目や食感、香りなど、おいしさ+αの魅力で、人々の毎日を彩ることができるうどんを作り上げたい。

●高校生の頃にフィールドワークを通して他社の新商品開発について学んだことが大きなきっかけです。季節や地域によってお菓子の味付けや切り方に細かな違いがあり、素材本来の味や強みが活かされていました。私はうどんの和の雰囲気、食感が大好きです。この企画を通して、素材がもつ美味しさを活かしつつ、商品として新たな魅力を生み出すために必要なことを学びたいです。

●杵屋様は薄味のだしを使用され、素材の旨味を存分に味わえるうどんを提供されているため、そのこだわりを大切にしながらも学生の多様な感性を活かし、オリジナリティーに溢れ、お客様を魅惑するような商品を開発したいと思いました。この商品開発を通し、商品開発をする上で重要となる消費者ニーズを把握する能力や顧客の行動分析能力、仲間と共に作り上げるために必要なコミュニケーション能力などを身につけたいと考えています。

●私が本プログラムへの参加を希望する理由は、自分の意見が形になる経験を積みたいからだ。3回生になり、これから就職活動が始まる中で、私が得意としているアイデアの創出という強みを実践の場で試してみることで、自己理解や仕事理解につながるのではないかと考えている。実際に、利益を出すこと求められる状況で、様々な要素を加味しながら、自分も食べてくれる人も好きになったり、楽しむことができたりする商品を開発したい。

●私は将来商品開発の職に就きたいと考えており、現在大学での授業や資格の勉強に励んでいますが、実践の場を持つ機会が無く、今回のこの機会をぜひ活かしたいと思い応募させていただきました。このプロジェクトに参加することで、新商品開発にあたっての壁や課題に触れ、自分の力で解決する力を身につけたいと考えています。実際杵屋にも行ったことがあるため、既存の商品を超える新商品を開発できるように頑張りたいです。

